

まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略 今後の方向性一覧

◇基本目標1 “住みたいまち”に

番号	具体的施策	KPI	目標	H28実績	今後の方向性
1-1	やぶぐらしの提案によるU・Jターンの促進	移住・定住相談件数 お試し住宅利用者数	2,000件 (累計)	1744件 11組	現在の進捗でいけばKPI達成の見込み。引き続き各事業の円滑な進捗を図ること。各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 やぶぐらしプロモーション事業ではイベントによりサイトアクセス数が増加しているが、一過性で終わらず相談・移住に繋がるよう効果的なプロモーションを継続していくこと。 市内での転居など、地域ごとに過疎化のスピードも異なる。地域ごとの人口推計など現状を把握すること。 Iターン者とUターン者向けではPR等を分けた方がいい。
	空き古民家や空き農地を活用した”農”がある田舎暮らしを体験することにより、養父市の魅力を提案するとともに、移住・定住希望者等の住まいやしごとまでをコーディネートするワンストップ窓口の機能強化と専門相談員を育成する。		20組(累計)		
1-2	若い世代をターゲットとしたUIJターンの促進	U・Iターン支援制度を利用したU(I・J)ターン者数	50組 (累計)	51組	KPIを達成したため、2次目標値を設定し、より効果を上げていくこと。 各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 やぶ暮らし住宅支援制度が30年度末で失効するため、効果等を検証し、新制度を創設する。また、今年度で終了する孫ターン事業については、既存制度の活用を含め代替事業を創設すること。 高校生等をターゲットにまちの魅力を伝える方法を検討すること。
	養父市で生まれ育った若者などへ結うターン(Uターン)を促す取組や回帰を促すアプローチを市民総参加で行い、女性をはじめとする養父市に関わりのある多様なUターンを促進する。		80組 (累計) (2次)		
1-3	U・I・Jターン者等による起業・就業の促進	U・I・Jターン者のOJT就業・起業数	25人 (累計)	8人	KPI推移は上がっているものの、目標達成には事業改善などの更なる努力を要する。 各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 実践型地域雇用創造事業の終了と若手職人育成事業の新規受付停止によりOJT就業者数が伸びていない。見直すものは見直し、インターンシップ支援事業をはじめ新たな就業支援の仕組みを構築すること。
	古民家、空き民宿など活用したI・Jターンによる起業やマンパワー不足が課題となっている介護・建設・農業・林業分野でのOJTによる就業を促進する。特に養父市に住む若い女性に対して雇用に繋がる資格取得等スキルアップを支援し、女性が活躍できる環境をつくることにより、女性のU・I・Jターンを促進する。				
1-4	ふるさと伝承体験学習の推進	ふるさと伝承体験講座実施回数	30回 (累計)	105回	KPIを達成したため、2次目標値を設定し、より効果を上げていくこと。 各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 今年度で終了する孫ターン事業については、既存制度の活用を含め代替事業を創設すること。
	お年寄りから昔ながらの伝統・遊び・料理等を伝承する機会を増やすことにより、生まれ育った地域や人への愛着を醸成する。		170組 (累計) (2次)		
1-5	空き家を活用した移住・定住の推進	空き家バンク成約件数	50件 (累計)	42件	現在の進捗でいけばKPI達成の見込み。引き続き各事業の円滑な進捗を図ること。 今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 空き家バンクやお試し住宅に多様な物件をそろえてPRすること。
	空き家解消に向けたストックの有効活用を図るとともに、農地と空き家を組み合わせるなどやぶぐらしを象徴する取組を推進する。				
1-6	戦略的なシティプロモーションの充実	芸術文化・伝統芸能に関する催し等の参加者数	12000人	7,862人	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の見直しを要する。 各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 事業設定は妥当であるが、参加者数に減少傾向がみられる。シティプロモーションの充実という観点からは、市外への発信を前提として情報発信のあり方を見直すべき。

◇基本目標2 “チャレンジできるまち”に

2-1	6次産業化の推進と拠点の整備【特区関連】	6次産業化への取組農業者・経営体数	15経営体 (累計)	8経営体	KPI推移は上がっているものの、目標達成には事業改善などの更なる努力を要する。各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。特区の効果が市民にとってはわかりにくい。数字等によりわかりやすく示すこと。
	農家・事業者の6次産業化を促進する加工機能・ノウハウを提供する仕組みを確立するとともに、農家・事業者が行う6次産業化への取組を推進する。				
2-2	多様な起業・創業の促進	起業・創業支援制度を活用した起業・創業件数	30件 (累計) 45回 (累計) (2次)	32件	KPIを達成したため、2次目標値を設定し、より効果を引き上げていくこと。事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。
	農業・林業・観光・子育て・福祉分野をはじめ幅広い起業・創業の立ち上げを促進するとともに、販路拡大、技術・業務提携、資金調達など一貫した成長発展を促す仕組みを構築する。				
2-3	農業を担う人材・経営体の育成【特区関連】	新規就農者・経営体数	20人 (社) (累計)	12社/7人	現在の進捗でいけばKPI達成の見込み。引き続き各事業の円滑な進捗を図ること。各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。特区により、市全体が変わってきていることを実感させることが必要。
	新規就農者への支援の充実、雇用の受け皿となる法人化を促進することにより、農業の担い手を育成する。また、おおや高原・轟高原などの特徴あるロケーションでの農業の担い手を呼び込む仕組みを構築する。				
2-4	企業立地の促進と規模拡大・第2創業などがんばる事業者の支援	企業立地・規模拡大等支援した事業者数	のべ100社 (累計)	73社	現在の進捗でいけばKPI達成の見込み。引き続き各事業の円滑な進捗を図ること。各事業について今後の方向性に沿って必要な改善を行う。企業戦略については、金融機関等と一緒に実験的な取組を行っていくことも必要ではないか。
	新たに立地する企業への支援や第2創業、事業拡大、設備の近代化、見本市への出展、新エネルギー設備の導入など頑張る市内事業者を支援し、商工業の振興を図る。				
2-5	近代化産業遺産の活用	明延地区の年間来訪者	100,000人	14,990人	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の見直しに加え、新たな事業を構築するなどの見直しを要する。プロジェクトチームが策定した計画を基にバックキャスト的に取り組むこと。
	兵庫県が推進する「鉱石の道」プロジェクトと連携し、明延鉱山「一円電車」の復活等による観光資源に磨きをかける取組を推進する。				
2-6	養父型観光資源のマネジメント手法の活用	マーケティング調査に基づいた企画ツアー件数	10本 (累計)	1事業者	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の強化等努力を要する。養父市版DMOが立ち上がり、目標達成に向けて関係機関と連携して誘客を強化すること。個別開発に留まり面的な開発に繋がらないままで終わらないよう、地域全体の開発へ広げること。
	養父市の資源を活用した着地型観光の推進とあわせ、観光業の経済効果と住民の暮らしを連動させるためのマーケティングと観光戦略づくりの体制を構築し、新しいツーリズムを興す。				
2-7	伝統産業のイノベーションプロジェクトの推進	養蚕関連事業に取り組む事業者数	1事業者	0事業者	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の見直しを要する。昨年度まで研究機関や企業と協議を重ねプレイヤーの検討を進めたものの、現状では養蚕に関わる新産業を興すには時期尚早であることが判明したため、養蚕をテーマとして既存の事業者が所得を得ることを主眼にして進めていく。時期尚早というより手遅れの状態。商売形態は昔と変わっていくことを理解し見直すこと。
	伝統産業であった養蚕産業を従来のシルク製品にとどまらず、美容健康分野、医学的利用も視野に入れた新たな産業として再生の可能性に向けた検討を行う。また、養蚕と関わりの深い養鯉産業の再生もあわせて検討する。				
2-8	やぶぐらしツーリズム推進拠点の整備【特区関連】	古民家などを活用した新たなツーリズム施設数	5施設 (累計)	4件	現在の進捗でいけばKPI達成の見込み。引き続き各事業の円滑な進捗を図ること。既存施設のポテンシャルを活かし稼働状況を高めていくこと。
	旧養蚕住宅を宿泊施設としたり、古民家や空き民宿等を活用するなどし、やぶぐらしを実感できる施設整備等の取組を支援し、地域の農産物の提供、農を通じた癒しによる滞在・体験型ツーリズムを推進する。				

◇基本目標3 “子育てしたいまち”に

3-1	男女の活動の場をつくる	若い世代で構成する団体が実施するイベント回数	5回 (累計)	10組	KPIを達成したため、2次目標値を設定し、より効果を上げていくこと。婚活に限らず地域を元気にするイベントや交流などを企画・運営する若い世代で構成する団体の設立等に対する支援が必要ではないか。
	男女が出会えるきっかけをつくるため、地域を元気にするイベントや交流などを企画・運営する若い世代で構成する団体の設立と活動を支援する。		16件 (累計)		
3-2	男女の出会いづくりと好感度の向上	世話人等による成婚数	15組 (累計)	8組	KPI推移は上がっているものの、目標達成には事業改善などの更なる努力を要する。各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。
	独身男女の出会いやお見合い等のカップリングをコーディネートする人材や団体を育成し、出会いの機会をつくるとともに、自分磨きや異性との関わり方を学ぶセミナーなどの開催により、異性との関わりが円滑にできる男女を増やす。				
3-3	子どもを持ちたい希望をかなえる	中学生以下の子どもを持つ世帯のうち多子世帯の割合	60%	57%	現在の進捗ではKPI達成には厳しいが、初産が増えるとKPI推移が下がることに留意が必要。希望する人数の子どもを持てるよう支援を行うこと。各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。
	不妊、不育に悩む夫婦や子育て家族が希望する人数の子どもを持てるよう支援し、経済的負担を軽減する。				
3-4	妊娠から子育て期までの切れ目ない支援を展開	この地域で子育てをしていきたい親の割合	80%	68%	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の見直しに加え、新たな事業を構築するなどの見直しを要する。各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。利用数の多少よりも、それぞれの子育て環境に応じて必要な事業が提供されているのか。事業間のつながりも考慮し取り組むこと。
	妊娠期から子育て期までの様々な支援をワンストップで切れ目なく展開するため、相談体制の充実と医療費、保育料の負担軽減を図る。また、雨天・冬季でも子どもが安全に遊べ、親同士のコミュニティの場となる環境を整備する。				
3-5	企業との連携による女性の仕事と育児の両立支援	ワーク・ライフ・バランス宣言事業者数	20社 (累計)	19社	現在の進捗でいけばKPI達成の見込み。引き続き各事業の円滑な進捗を図ること。事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。実態調査により質のチェックを行い、その上で必要な支援を行うこと。
	企業との連携による健全な共働き社会を実現するため、ワーク・ライフ・バランスへの取組や育児休暇、出産・育児等で離職した女性の再雇用への取組を促進する。				

◇基本目標4 “健康長寿のまち”に

4-1	健康・体力づくりの推進 生活習慣病の予防と改善、健康寿命の延伸のため、壮年期からの健康づくりのため、運動や体力づくりを推進する。	週1回以上運動している人の割合	42.0%	36.9%	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の見直し等により若年層への取組を強化すること。 各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 ICT等を活用する等、企業と協力しながら健康づくりを推進すること。
4-2	地消地産と食育の推進 豊かな自然や風土により生産された安全・良質な食材を地域で消費する流通サイクルの確立と市民の食に対する安全意識の向上を図る。	学校給食での養父市産品使用割合	30%	17%	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の見直しに加え、新たな事業を構築するなどの見直しを要する。 高付加価値の製品の生産に取り組んでいる中で、低価格で大量の食材を必要とする給食センターへの対応は難しい部分があるが、どのような課題があり、課題のクリアに何が必要か検討を行うこと。 健康長寿につながるような、他の指標を検討する必要がある。
4-3	高齢者等の生きがいづくりと社会参加の促進 高齢者の就労ニーズに合わせた就労に関する取組を推進する。特に国家戦略特区の規制緩和も視野に入れ(公社)養父市シルバー人材センターによる地域課題の解決(農、観光、子育て、福祉分野など)に資する取組を促進する。	シルバー人材センターの斡旋による高齢者の就労数	50,000人 日	48,972人 日	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の見直しに加え、新たな事業を構築するなどの見直しを要する。 各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。
4-4	疾病予防と健康づくりの推進 高齢になっても健康で住み慣れた地域で元気に暮らせるよう、若いときからの健康づくりとまちぐるみできめ細かな健康管理・疾病の早期発見と生活習慣病予防を図るための取組を進める。	特定保健指導利用率	60%	49%	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。事業を強化し利用率の向上を図ること。 事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。
4-5	公立八鹿病院、市立診療所の医師確保による医療機関の安定運営 継続的かつ安定的な医療提供のため、公立八鹿病院の深刻な医師不足及び市立診療所の医師の高齢化に対応する取組を実施する。	八鹿病院医師数	45人	38人	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の見直しに加え、新たな事業を構築するなどの見直しを要する。 事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。
4-6	介護予防の推進 地域ぐるみでの介護予防の場を拡大することを推進し、地域において自立支援に資する取組やすべての高齢者が生きがい・役割をもって生活できるための取組を推進する。	毎日元気にクラス開催箇所	60箇所 (累計)	38箇所	現在の進捗でいけばKPI達成の見込み。引き続き各事業の円滑な進捗を図ること。 事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 やっただけで終わることなく、区単位でなく少数のグループでも継続して運動していくことが重要である。
4-7	地域ぐるみによる消防・防災体制の充実 自主防災活動の拡大や避難態勢の確立など、市民の防災意識の向上に努めるとともに、災害時における市民の安全確保のための伝達機能を向上させる。	防災訓練参加者数	15,000人	11,093人	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の見直しに加え、新たな事業を構築するなどの見直しを要する。 事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。